

# 2024年度セグメント別活動状況

セグメント	実績概況	業績 (億円) *各セグメント内の ( ) 内の数字はセグメント別構成比です	主要製品
繊維	<p>衣料用途は欧州市場の低迷や海外品との競争激化の影響は継続していますが、総じて堅調に推移しました。</p> <p>産業用途は自動車用途が国内自動車メーカーの減産や欧州の市況低迷などから本格回復に至らず、また中国EV市場での競争激化の影響を受けました。</p>	<p>売上収益 <b>10,111</b> (39%)</p> <p>事業利益 <b>642</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイロン・ポリエステル・アクリル等の糸・綿・紡績糸及び織編物</li> <li>不織布</li> <li>人工皮革</li> <li>アパレル製品等</li> </ul>
機能化成品	<p>樹脂・ケミカル事業は、樹脂事業が国内自動車メーカーの減産の影響を受けたものの、中国及びASEAN向け非自動車用途の需要が回復しました。</p> <p>フィルム事業は電子部品関連用途において、サプライチェーンの在庫調整の反動から需要が伸長しました。</p> <p>電子情報材料事業は、有機EL関連材料・回路材料の需要に回復が見られました。</p>	<p>売上収益 <b>9,449</b> (37%)</p> <p>事業利益 <b>600</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ナイロン・ABS・PBT・PPS等の樹脂及び樹脂成形品</li> <li>ポリオレフィンフォーム</li> <li>ポリエステル・ポリエチレン・ポリプロピレン等のフィルム及びフィルム加工品</li> <li>合成繊維・プラスチック原料</li> <li>ファインケミカル</li> <li>電子情報材料</li> <li>印写材料等</li> </ul>
炭素繊維複合材料	<p>航空宇宙用途は順調に回復しました。</p> <p>一般産業用途については、風力発電翼用途は緩やかな回復が続きましたが、その他用途は調整局面となりました。</p>	<p>売上収益 <b>3,000</b> (12%)</p> <p>事業利益 <b>225</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>炭素繊維・同複合材料及び同成形品等</li> </ul>
環境・エンジニアリング	<p>水処理事業は中国の市況低迷の影響を受けましたが、需要は堅調に拡大しており、中東向けの大型案件の出荷等により増収増益となりました。</p> <p>エンジニアリング事業は国内エンジニアリング子会社で案件の時期ずれにより減収となったものの、概ね堅調に推移しました。</p>	<p>売上収益 <b>2,365</b> (9%)</p> <p>事業利益 <b>259</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水処理用機能膜及び同機器</li> <li>総合エンジニアリング</li> <li>マンション</li> <li>産業機械類</li> <li>住宅・建築・土木材料等</li> </ul>
ライフサイエンス	<p>医薬事業は、後発医薬品浸透と薬価改定の影響を受けたほか、海外で販売量が伸び悩みました。</p> <p>医療機器事業は、血液透析ろ過用ダイアライザーの出荷が国内外で堅調に推移しましたが、原材料価格高騰の影響を受けました。</p>	<p>売上収益 <b>532</b> (2%)</p> <p>事業利益 <b>▲8</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医薬品、医療機器等</li> </ul>

\*上記のセグメント以外に、その他の売上収益177億円(1%)、その他の事業利益24億円、事業利益の調整額▲315億円があります。

売上収益  
**10,111**億円

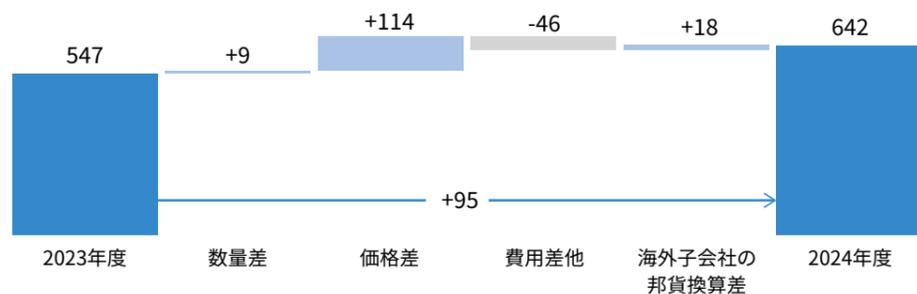
事業利益  
**642**億円

事業利益率  
**6.3**%

ROIC  
**8.2**%

(年度)	2023	2024	増減率
売上収益(億円)	9,748	<b>10,111</b>	+3.7%
事業利益(億円)	547	<b>642</b>	+17.3%
事業利益率	5.6%	<b>6.3%</b>	

事業利益増減(億円)



### 環境配慮型新素材「シルック美来™/SillookMirai™」を開発

「みらいの日常を美しく」をコンセプトに、植物由来PETと複合紡糸技術NANODESIGN®を融合した新素材「シルック美来™/SillookMirai™」を開発しました。植物由来原料を約30%使用した環境配慮型新素材で、NANODESIGN®技術の深化によって実現した、表面凹凸の異なる異形断面繊維が混在する糸束構造により、シルックタッチや自然な光沢といった高質感に加え、着物の裾がすれ合う際の「絹鳴り」も再現します。また、これまでのシルック®では困難だった和装における着用時の着崩れ防止や、優れた耐洗濯性、更にはイージーケア性を実現すると共に、繊維の断面形状を精密に制御することで生まれる快適機能性を付与しています。

「シルック美来™」は、絹の美しさと、絹にはない優れた機能を追い求めてきたシルック®の60年間にわたる技術革新の集大成です。伝統的和装から最先端のファッションまで幅広い用途で人々の豊かな生活と持続可能な社会の実現に貢献していきます。



縫製品外観

テキスタイル外観

テキスタイル表面

## 事業トップメッセージ

### 繊維事業



繊維事業本部長  
沓澤 徹

#### 事業の強み

東レの繊維事業は、①技術開発力と多彩な商品群、②サプライチェーンへの対応力、③グローバルな事業展開、の3軸の要素を自在に組み合わせ、お客様にあらゆるソリューションを提供しており、この「世界で唯一の3次元事業展開」が事業の強みです。

#### ROIC向上に向けた取り組み

##### 既存事業の収益力改善と成長戦略

「エアバッグ」「衣料用一貫型」「人工皮革」の3つの事業を、成長を牽引するコア成長事業と位置付け、収益力改善と更なる成長に向け取り組みを進めます。

「エアバッグ」事業については、自動車生産の回復、新興国でのエアバッグ装着率の増加を背景とした需要拡大に対応し、各拠点の増能力・増設や事業高度化、次世代開発強化に取り組み、当社の強みである等価基布グローバル供給体制と原糸・基布・縫製までの一貫体制を生かし、事業拡大と東レの「勝ちパターン」の追求を継続する方針です。

「衣料用一貫型」事業については、エアバッグと同様、当社の強みである衣料用途のグローバルサプライチェーンの深化と延伸にも継続して取り組み、糸綿・生地・縫製の一貫供給体制を武器に、今後も多様なお客様のニーズに柔軟に対応すると共に、インドなど今後の有望市場に向けた生産基盤の拡充を推進し、サプライチェーンの対応力の更なる強化を図ります。

「人工皮革」事業については、Ultrasuede®、Alcantara®の2ブランド戦略の取り組みを強化します。主要用途である自動車内装用途では、天然皮革の代替進行や成長が期待されるEV市場向け等の需要取り込みを狙います。自動車内装用途以外でも、衣料・家具・アクセサリ・コンシューマーエレクトロニクス分野等、高級ブランド顧客への訴求を強化していきます。

その他、これら3つの事業以外についても、環境配慮型素材や非衣料事業の収益拡大などの重要課題に継続的に取り組む方針です。

#### 「構造改革」での課題と進捗

AP-G 2025では、コロナ禍での市場構造変化等の影響を受けて苦戦が続く「PPスパンボンド」「ポリエステル短繊維」「ポリエステル・綿混(T/C)織物」の3つの事業や、国内繊維関係会社の構造改革に取り組んできました。

「PPスパンボンド」「ポリエステル短繊維」事業については、収益改善プロジェクト(Dプロ)の一環として構造改革に取り組み、早期黒字化定着に向けて、固定費削減やグローバルでの品種移管、高付加価値品拡販等の課題を推進しています。

「ポリエステル・綿混(T/C)織物」事業や国内繊維関係会社についても、事業構造分析を踏まえた事業規模見直し、グローバルオペレーション強化や用途転換等を通じた高収益事業へのシフトを進めています。

次期中経期間では、更なるROIC向上に向け、各事業を再検証し、事業ポートフォリオの見直しに、よりスピード感を持って取り組む方針です。

売上収益  
**9,449** 億円

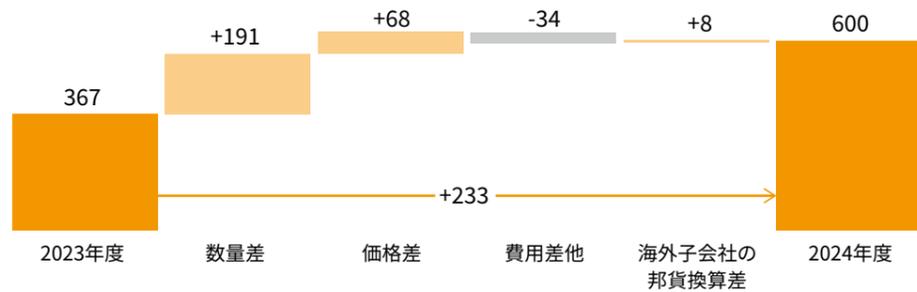
事業利益  
**600** 億円

事業利益率  
**6.4** %

ROIC  
**6.7** %

(年度)	2023	2024	増減率
売上収益(億円)	8,861	<b>9,449</b>	+6.6%
事業利益(億円)	367	<b>600</b>	+63.6%
事業利益率	4.1%	<b>6.4%</b>	

事業利益増減(億円)



機能化成品のサブセグメント別売上収益(億円)

(年度)	2023	2024	増減率
樹脂・ケミカル	3,912	<b>4,275</b>	+9%
フィルム	3,305	<b>3,653</b>	+11%
電子情報材料	655	<b>715</b>	+9%
商事他	5,225	<b>5,537</b>	+6%
修正	▲4,236	▲4,732	—
合計	8,861	<b>9,449</b>	+7%

### 先端半導体向けPFAS<sup>\*1</sup>フリーのモールド離型フィルムを実用化

半導体素子を外部環境から保護するためにモールド樹脂で封止する工程では、金型汚染を防ぐためにモールド樹脂と金型の間には離型フィルムが使用されます。最先端の半導体では、モールド樹脂等に起因する金型汚れやモールド形状の複雑化により、離型フィルムが破れたり、離型フィルムのシワがモールド樹脂に転写されるといった課題が顕在化してきました。

東レは、独自のNANOALLOY<sup>®2</sup>技術によって、ガスバリア性と耐熱柔軟性を備えたモールド離型フィルムを開発しました。ガスバリア性により金型汚れの原因物質を遮断することで、金型汚れを従来比1/5以下まで抑制し、最先端半導体製造工程の稼働率向上に貢献します。また、耐熱柔軟性によって、モールド成形時のフィルム破れとシワの転写を抑制することに成功しました。本フィルムは、欧州等で規制が検討されている有機フッ素化合物(PFAS)を含まない材料で構成されています。



\*1 人工的に作られた有機フッ素化合物(ペルフルオロアルキル化合物、ポリフルオロアルキル化合物及びこれらの塩類)の総称。難分解性をもつPFASは、環境への流出量を抑制するために欧州等で規制が検討されています

\*2 複数のポリマーをナノメートルオーダーで混合させることで、従来材料と比較して飛躍的な特性向上を発現させることができる当社独自の革新的微細構造制御技術

## 事業トップメッセージ

### 樹脂・ケミカル事業



樹脂・ケミカル事業本部長  
**遠藤 太嘉志**

### 事業の強み

樹脂事業では原料・ポリマー・コンパウンドの一貫生産体制、日本含め世界10か国に有する拠点からのグローバル安定供給、高品質かつ豊富な製品ラインナップとカスタマーサクセスを実現する新製品開発力、ケミカル事業では独自の合成技術による強い製品群を生かしたトータルソリューション提案力、高品質なファインケミカル製品による差別化が強みです。

### ROIC向上に向けた取り組み

#### 既存事業の収益力改善と成長戦略

樹脂事業、ケミカル事業共通の基本方針として、①技術開発とサプライチェーン強化による徹底的な差別化、②イノベーション創出による高機能・高付加価値品の開発と新規事業化の推進、③成長市場・分野へのコミットメントを掲げ、取り組んでいます。

樹脂事業では、お客様の新製品開発情報を早期に入手し、材料・設計・加工一貫のソリューションを提案する先行開発の推進で収益力の強化を図ります。また中国に続く成長市場として、インドやアフリカ等の新市場の需要を開拓し拡販を推進します。ケミカル事業では、剥離剤・洗浄液等に使用されるDMSO(ジメチルスルオキシド)や、複層ガラスのシーリング材、接着剤に使用されるチオコール等のファインケミカル製品において、品質優位性を武器に、高付加価値かつ成長する用途や市場で参入障壁を築き、収益性を一層向上させます。

### 「構造改革」での課題と進捗

足元の中国過剰生産能力に起因した競争激化と製品の汎用化は不可逆の環境変化との認識の下、収益力が低下した事業の構造改革に取り組んでいます。

一例として、マレーシアのToray Plastics (Malaysia) Sdn. Berhad. (TPM社)の構造改革が挙げられます。中国ABS樹脂メーカーの増設に伴う需給バランス悪化により、TPM社は2022年度に赤字に転落し、早期黒字化と共に、市況に影響を受けにくい事業構造への転換が課題でした。そこで、徹底的な現状把握・分析を通じて短期、中期の課題を抽出し、まずはコストダウンと戦略的プライシングにより2023年度下期に黒字化を達成、更にお客様に価値を認めていただける用途・地域・品種の開発と拡販に集中して取り組むことで、2024年度には大幅な収益改善の成果を上げました。引き続き、収益力向上を目指していきます。

今後も、高機能製品の開発・販売を通じてお客様と一緒に新しい価値を創造すると共に、サステナブル材料の事業拡大やサプライチェーン全体を見据えたGHG排出量削減にも取り組み、社会の持続的な発展に貢献していきます。

## 事業トップメッセージ

### フィルム事業



フィルム事業本部長  
井辻 和久

#### 事業の強み

お客様の多彩なニーズに対応できる多様な品揃えの高機能製品を世界各地で安定供給できる販売体制と、それを支えるポリマー技術、ナノテクノロジー、フィルム製膜・クリーン化技術やコーティング蒸着などの加工技術を要素技術とし、更にその極限特性を追求できる研究開発力が大きな強みです。使用済みPETフィルムを回収再利用したエコユース®は日本に加え欧米でも展開を開始しており、サステナビリティへの対応でも世界をリードしています。

#### ROIC向上に向けた取り組み

##### 既存事業の収益力改善と成長戦略

「プラスチックフィルム」から「環境にも優しい機能性フィルム」への全面転換を基本方針としており、当社の製膜・加工技術の特長・優位性を生かせる、以下の3つの戦略を軸に事業展開を図っています。

##### ① 各種の製造工程用フィルムの注力・アップグレード化

当社が持つ表面微細設計技術・厚み均一化・異物管理力等を生かし、お客様の製品の高度化と歩留り改善に貢献。お客様での使用済み製品の回収再利用を含めた価値向上分を製品価格に転嫁し、収益改善を図っています。改善は絶えず継続し、当社製品のアップグレードと共にお客様の製品価値向上にもつなげる好循環を作り上げています。

##### ② コンデンサ誘電体用途の拡大

薄膜化がコンデンサ特性の向上につながるMLCC製造工程用やxEV用フィルムコンデンサ等、コンデンサ誘電体用途の拡大を図ります。

##### ③ バリア性とシーラント性(封止性)の付与の強みを生かした包装材料の拡大

欧米子会社及び東レフィルム加工(株)が展開する、食品等の賞味期限延長に貢献する包装材料向け各種蒸着製品やCPPフィルムを拡大します。

#### 「構造改革」での課題と進捗

① 小型で製品の汎用化が進んだPETフィルムの製造ラインの統廃合をアジア・欧州・米国の各拠点で実施し、付加価値の高い製品に絞った生産販売体制の整備と固定費の削減を進めました。PET重合事業についても拠点の集約化等による構造改革を実行中です。

② 製品の汎用化が進み新興勢力の生産能力の拡大で価格下落が進んだBSF事業は韓国・那須の小型汎用ラインの停機を完了させました。

## 事業トップメッセージ

### 電子情報材料事業



電子情報材料事業本部長  
平野 昌宏

#### 事業の強み

ポリイミド、ポリシロキサン、アクリル樹脂の材料特性を効果的に引き出す要素技術や製品開発力、大手顧客との強固なパートナーシップなどを有していることです。なかでも有機EL関連材料は、高信頼性などが評価され、シェアナンバーワンの地位を築いています。半導体・電子部品用材料でも、用途に合わせて取り揃えた豊富な製品ラインナップを武器に、高い市場シェアを獲得しています。これらの強みを一層伸ばすことにより、全社を挙げたデジタルイノベーション(DI)事業の拡大に貢献します。

#### ROIC向上に向けた取り組み

##### 既存事業の収益力改善と成長戦略

有機EL関連材料では、2024年度から稼働を開始している感光性ポリイミドの増設ラインを活用して更なる拡販に努めると共に、2025年度に入って現地拠点に設置した研究開発用設備の活用などを通じて、大手顧客との協働による材料の高機能化、高付加価値化を推進します。

半導体・電子部品用材料では、拡大が続く需要と環境対応ニーズの両方を満たすため、新たに稼働を開始したN-メチル-2-ピロリドン(NMP)フリーの感光性ポリイミド新設ラインの活用を通じ、パワー半導体用途を中心に一層のシェア拡大を目指します。

また戦略的プライシングの活動では、ヘッドマウントディスプレイやタブレット向けなどに競争力の高い新製品の販売を拡大して収益力を上げることに加え、既存製品のお客様価値分析をベースとした販売価格見直しにも注力しています。これらの取り組みを着実に推進し、持続的で環境に配慮した事業拡大を実現していきます。

#### 「構造改革」での課題と進捗

現在、製品ポートフォリオの見直しを進めています。ディスプレイ用回路材料を製造・販売する韓国子会社では、両面配線形成が可能なめっき品を開発し、成長が鈍化しているテレビ用途から、高密度配線が求められるタブレット用途に販売をシフトしてきました。更に2025年度からは、めっき加工技術を生かして、成長が期待される電子部品である薄膜型パワーインダクタ用コイルの加工ビジネスを開始しています。今後も、これら半導体・電子部品用材料の拡販に注力し、長期的には、有機EL関連材料やディスプレイ用回路材料などを上回る重要な柱に育てていきます。

売上収益  
**3,000** 億円

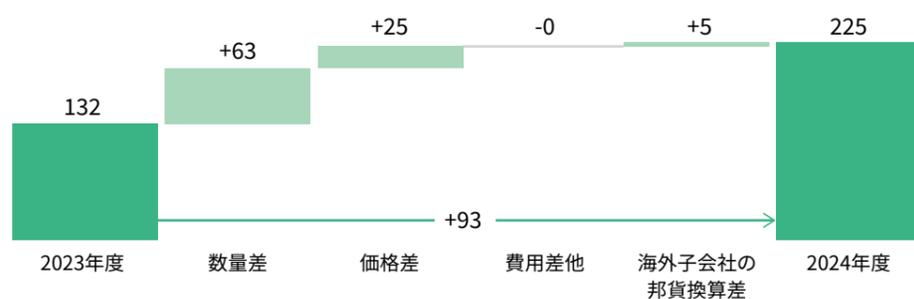
事業利益  
**225** 億円

事業利益率  
**7.5%**

ROIC  
**3.0%**

(年度)	2023	2024	増減率
売上収益(億円)	2,905	3,000	+3.3%
事業利益(億円)	132	225	+70.7%
事業利益率	4.5%	7.5%	

事業利益増減(億円)



### 世界最速を目指すトラックバイクを開発

東レ・カーボンマジック(株)(以下、TCM社)は、(公財)日本自転車競技連盟のトラック競技強化指定選手を強化・育成する「High Performance Center of Japan Cycling (HPCJC)」と共に、革新的なトラックレース用バイク「V-Izu(ブイ・イズ)」の2モデル、「TCM-1」と「TCM-2」を開発しました。

TCM社は、2022年度より(公財)JKAの開発補助事業採択を受け、「世界最速を目指す革新的トラックバイクシステムの開発」に取り組んできました。TCM社が持つレーシングカーを始めとした高性能移動体開発技術を応用し、空力と構造の両面で最高性能を目指して研究開発を重ね、2種のバイクを完成させました。人車一体的な空力特性の最適化に加え、東レが誇る高強度・高弾性炭素繊維「T1100G」「M40X」「M46X」を効率的に配した複合材構造により、比類なき運動性能と操縦性を実現し、パリで行われた国際大会自転車競技トラック種目での日本代表選手の入賞や世界選手権における金メダル獲得に貢献しました。



## 事業トップメッセージ

### 炭素繊維複合材料事業



複合材料事業本部長  
吉山 高史

### 事業の強み

東レの炭素繊維複合材料事業は、「高機能性」と「高信頼性」を兼ね備えた製品群を欧米日韓の4極から提供することで、グローバル市場において確固たる地位を築いています。長年にわたる実績に裏打ちされた品質の高さと、ユーザーにとっての使いやすさは、航空・宇宙、自動車、エネルギー、スポーツ、電子機器、医療など多岐にわたる分野で高く評価されています。

また、レギュラートウやラージトウ炭素繊維に加え、熱硬化性樹脂・熱可塑性樹脂などの中間基材や成形品の開発力・提案力を生かし、最先端の素材・製品の創出に取り組んでいます。これにより、カーボンフットプリントの改善など、環境負荷低減に対する市場のニーズにも迅速に対応し、事業の拡大を通じてカーボンニュートラル社会の実現に貢献しています。

### ROIC向上に向けた取り組み

#### 既存事業の収益力改善と成長戦略

- 航空機市場のビルドレート向上や、宇宙・防衛分野での需要拡大を背景に、高性能炭素繊維及び中間基材領域の売上比率を戦略的に拡大します。
- 技術革新を継続し、炭素繊維の価値向上に加え、プリプレグなどの加工品においても新たな付加価値を創出し、これら新材料のスポーツ用途での新価値を提案し続けます。この技術インキュベーションを通じて、航空・宇宙分野へも展開を進めます。
- 高い品質安定性を強みに、高級自動車や水素・天然ガス用圧力容器用途における市場シェアを維持・強化します。
- 中間基材からコンポジット製品までの川中・川下領域へのサプライチェーン拡張により、事業規模の拡大と収益力の向上を図ります。

#### 「構造改革」での課題と進捗

- Dプロ対象会社のZoltek社では、生産体制の柔軟な変更による総固定費の削減を進めると共に、メキシコ／ハンガリー間のPANグローバルオペレーションを強化します。欧米顧客向けには、洋上風力発電や長尺ブレード用途に対応した高品質グレードの製品開発・用途開拓を推進します。
- レギュラートウにおいては、地域・用途別の高性能炭素繊維の品種別差別化戦略を展開します。並行して、コスト競争力の強化とグローバルな生産オペレーションの最適化を進めます。
- 炭素繊維のリサイクル技術の開発と市場導入に向けた取り組みを強化し、持続可能な素材循環型社会の構築に貢献します。また、GHG排出量削減を意識したグローバルオペレーションも強化します。

売上収益  
**2,365** 億円

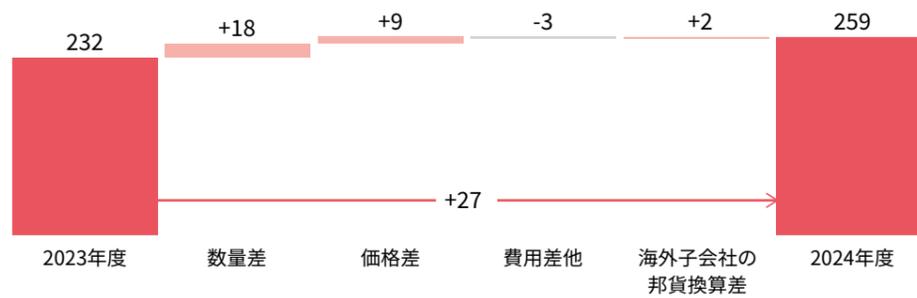
事業利益率  
**11.0**%

事業利益  
**259** 億円

ROIC  
**9.7**%

(年度)	2023	2024	増減率
売上収益(億円)	2,441	<b>2,365</b>	-3.1%
事業利益(億円)	232	<b>259</b>	+11.6%
事業利益率	9.5%	<b>11.0%</b>	

事業利益増減(億円)

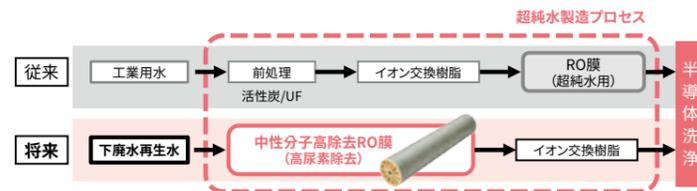


### 下廃水再生水からの超純水製造を可能とする 逆浸透(RO)膜の販売を開始

半導体分野等での超純水製造に向け、下廃水再生水を原水とした場合に求められる尿素除去性を2倍に高めた中性分子高除去・低圧逆浸透(RO)膜エレメント「TBW-XHRシリーズ」を開発し、国内水処理エンジニアリング会社への販売を開始しました。

半導体メーカー各社は、大量の超純水を使用する半導体製造工程において、工場内廃水の再利用を高める取り組みに加え、半導体製造に用いる超純水の水源として、現状の水道水に代わる下廃水再生水の活用や海水の利用拡大を検討しています。しかし、半導体製造の露光工程等でトラブルの原因となる尿素濃度が、下廃水再生水は水道水の3倍と高く、更に尿素の分子は小さく電氣的に中性であるため、海水中のホウ素と同様に除去が難しいという課題がありました。

新たな膜構造の制御技術は、社内評価で90%に近い尿素除去性を示しており、下廃水再生水からの超純水製造において、尿素を従来比半減する等、最先端の半導体製造工場で求められる高水質な超純水の安定供給に貢献します。



## 事業トップメッセージ 水処理事業



水処理・環境事業本部長  
下山 哲之

### 事業の強み

当社は1960年代より膜技術の開発に取り組んできたパイオニアであり、主力のRO(逆浸透)膜においては、海水淡水化(海淡)用途・超純水用途でグローバルシェアNo.1を誇ります。水処理膜メーカーとして唯一、RO・NF(ナノろ過)・UF(限外ろ過)・MF(精密ろ過)といった全ての膜製品を自社で開発しており、水源と用途に応じた最適な水処理ソリューションを提案できることが強みです。更に、世界に35か所の営業拠点、6か所の生産拠点、4か所のR&D拠点を有し、生産・販売・技術・研究のグローバル一体運営を行っており、各種膜製品に関する営業・技術サービスをシームレスに提供できる点も大きな特徴です。

### ROIC向上に向けた取り組み

- 世界最大規模の中東Taweelah海水淡水化プラント向けを初め、海淡用途において圧倒的な受注実績を有しています。中東から今後拡大する北アフリカでの新規プラント建設需要に加え、既存プラントにおけるRO膜定期交換需要も獲得し、“海淡の東レ”の地位を武器に市場をリードしていきます。
- 気候変動に伴う渇水により廃水再利用が取水源として注目を浴びています。地域ごとに異なる原水・用途に応じた対応が求められていますが、当社の高耐久UF膜と低汚れ性RO膜を組み合わせた統合膜処理システム提案は、厳しい条件でも経済性と安全性を両立するシステムとして、米国西海岸サンディエゴの市水を賄う大型下水再利用案件にも採用されています。
- EVやAI需要に伴い伸長する半導体製造用の超純水用途では、歩留まり向上に向けた超純水の純度向上に加え、SDGsの潮流を受けて工程水の再利用ニーズが高まっています。当社では、下廃水再生水を高純度の超純水にまで変える世界最高の中性分子除去性能を持つRO膜を開発・上市し、お客様から高評価を頂いており、半導体の高性能化に貢献を続けています。
- これら成長領域での事業拡大と収益力強化を進めるため、既存設備の増能力による限界利益の最大化と、増設による生産体制の構築に同時並行で取り組んでいます。
- また、更なるお客様へのサービスの向上に向けて、体系化された総合技術サービスを強みに、膜技術による水問題のソリューションを提供することで、既存の水処理膜事業の事業拡大と収益性の維持向上を図ります。
- 加えて、「Membrane+」として、薬品事業やICTを活用したO&M(運転管理)支援等の膜周辺技術の提供や、食品用途やリチウムなど有価物回収用途などへの膜分離技術の展開を進めていきます。

売上収益  
**532**億円

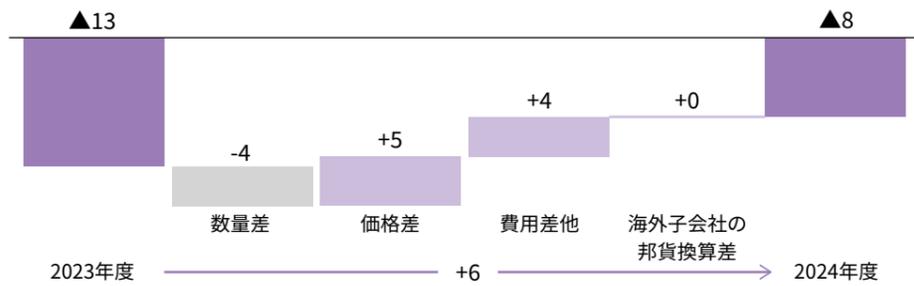
事業利益  
**▲8**億円

事業利益率

ROIC  
**-1.4**%

(年度)	2023	2024	増減率
売上収益(億円)	522	532	+1.8%
事業利益(億円)	▲13	▲8	—
事業利益率	—	—	—

事業利益増減(億円)



### 個人用透析装置TR-20EXの販売を開始

東レ・メディカル(株)(以下、TMC社)は、腎不全の治療に用いる血液透析、血液透析ろ過、血液ろ過などに対応した多用途透析装置「個人用透析装置TR-20EX」を開発し、2024年6月より販売を開始しました。

「TR-20EX」は、液晶ディスプレイの大型化による視認性・操作性の向上に加え、①安定透析の支援(循環動態監視、透析効率など)、②運用の合理化(透析液自動化機能、各種システム連携など)、③操作・メンテナンスの効率化(透析ナビゲート機能、カセット式ETRFユニットなど)、④災害・緊急事態への備え(漏液検知、緊急時自動返血機能など)の4点に重点をおいて開発されました。透析患者の「診療支援」と、医療スタッフの「業務支援」への寄与が期待されます。

TMC社は、多用途透析装置をはじめ、透析用水作製装置(RO装置)や、多人数用透析液供給装置、透析情報システム、生体適合性に優れたダイアライザー、ヘモダイアフィルター、β2-MG除去カラムなどの様々な透析関連製品を、施設の環境に合わせて提案することで、今後も透析患者のQOL(生活の質)向上に貢献していきます。



個人用透析装置 TR-20EX

## 事業トップメッセージ

### 医薬・医療事業



医薬・医療事業本部長  
早川 潤

#### 事業の強み

医薬・医療事業は、東レのコア技術である有機合成化学、高分子化学、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーを駆使し、アンメットメディカルニーズを解決する医薬品、医療機器の販売、研究開発に取り組んでいます。特に医療材事業では、先端材料技術をベースに付加価値の高い革新医療材料・機器を創出しており、競争力の源泉となっています。透析事業においては、中空糸・表面加工技術の特徴とするダイアライザーと、透析監視装置から透析用水製造装置及びその管理システムに至るまで全てを取り揃える国内唯一のメーカーとして、患者様の満足度向上と、医療従事者の負担軽減、透析施設の経済性向上に貢献しています。

#### ROIC向上に向けた取り組み

##### 既存事業の収益力改善と成長戦略

国内では医療保険制度において医療用医薬品、特定の医療材料の償還価格(薬価、材料価格)が定められ、原材料価格などの高騰を価格転嫁できない中、償還価格の継続的な引き下げもあり厳しい事業環境が継続しています。

その中で、収益の改善に向けてグローバル展開、高付加価値品の拡販、透析システムの施設診療支援によるお客様への新たな価値の提供を進めています。更に2024年に上市した膵がんの診断を補助する体外診断用医薬品「東レAPOA2-iTQ」の拡販を進め、収益拡大につなげています。

2025年8月には、エンドトキシン除去向け吸着型血液浄化用浄化器トレミキシン®について、ライセンス先のSpectral Medical Inc.と進めてきた海外試験の結果が得られ、今後米国食品医薬品局(FDA)の申請に進むことを公表しました。

#### 「構造改革」での課題と進捗

東レの強みである膜技術を生かした製品(血液浄化カラム、透析膜等)に経営資源を集中していきます。特に東レの独自素材である生体適合性に優れるPMMA(ポリメチルメタクリレート)製の膜については、吸着特性を有する特殊な膜として受け入れられており、グローバル展開、新たな用途への拡大を積極的に進めます。

一方で不採算製品・事業については、徹底的なコスト削減、組織のスリム化などによる効率化で収益改善を進めています。また、東レがベストオーナーではないと判断される場合は、撤退、売却も視野に検討を進め、開発段階の新製品を早期上市することも含め、製品ポートフォリオを変革することで、ROICの向上を進めていきます。